

# 1 教育目標

## (1) 本校の教育目標

「克己・友愛・励学」の精神を礎に、校風と伝統を創造する心豊かな生徒の育成をめざす。

- ①自らを律し、心豊かに生きる生徒の育成
- ②自ら学び、深く考え、粘り強く追究する生徒の育成
- ③安全に心がけ、進んで心身を鍛えることのできる生徒の育成

## (2) 経営方針

「一人を粗末にするとき、教育はその光を失う」の至言を体し、地域社会の期待に応え確固たる校風の樹立に努める。

- ①全校一致、和の精神に徹し、活気と創意に満ちた学校づくりに努める。
- ②教育愛、使命感に燃え、生徒一人一人を大切に教育を推進する。
- ③命の尊さを知って、健康と安全に心がけ、たくましい心と体を鍛える。
- ④全ての生徒が個性を生かし、精一杯努力する気風をつくる。
- ⑤授業研究を中心に積極的な研修を進め、教師の力量と資質を高める。
- ⑥教育の場を広く内外に求め、国際化をめざした教育の推進を図る。
- ⑦家庭や地域社会との連携を密にして、生徒の健全育成を図る。

## (3) 本年度の重点努力目標

「君の笑顔を求めて」のテーマのもと、「学校生活のどの場面を取り上げても生徒の笑顔があふれる学校」をめざす学校像とし、9つの「重点努力目標」からアプローチを図る。

笑顔とは、①真剣に取り組む姿 ②思い切り楽しむ姿 ③満足感あふれる姿と捉え、こうした姿が学校生活の様々な場面で見られたとき、それが「確かな学力」や「豊かな心」・「健康な体」が育まれている過程であると考え。そして、学力・心・体が育成されることで、他の場面やより質の高い笑顔につながっていくものと考え。

## (4) 目指す教師像

- ①人間性豊かで、教育愛と使命感に満ちた教師
- ②幅広い教養と学習指導の専門性を身に付けた教師
- ③生徒一人一人に限りない愛情を注ぎ、適切な指導・支援ができる教師
- ④高い倫理観をもち、心身ともに健康で明朗・快活な教師

## 【生きる力の育成】

### 〈信頼関係づくり〉

#### ①生徒と教師の「絆」を深める生徒指導

教師と生徒のよりよい人間関係は、全ての教育活動を支える基盤となる。生徒の心を開き、生徒と教師が互いに信頼し合える学校づくりに努める。そして、「自分が大好き」と言える自己肯定感の高い生徒の育成を図る。

- 「おいあくま」(怒るな・威張るな・焦るな・悔やむな・負けるな)の徹底
- 「我慢力」「トラブル解決力」の育成
- やりたいことの前に、やらなければならないことがきちんとできる生徒の育成

#### ②不登校への対応

学校は、集団生活を通して心と体と頭を鍛えるところであるが、様々な要因で登校できなくなったり、教室に入れなくなったりする生徒も少なくない。そこで、温かい人間関係(集団)づくりと不安や心配・緊張・心の痛みをかかえる生徒へのサポートが重要となる。

- 相談活動の充実と適応教室の整備(教育相談週間の設定やアンケートの実施)
- チームによる対応及び、関係諸機関との連携
- 小中連携の継続・発展

#### ③家庭・地域との連携

行事や輝ぶな学習、ボランティア活動などを通して積極的に地域との交流を図る。また、「北中協力会」「北中ネットワーク会議」「学校評価活動」をより充実させ、「開かれた学校づくり」を一層推進する。

- 地域の「人・もの・こと」の活用と奉仕活動の一層の推進(E S D)
- アンケートの分析及び「子ども白書」づくりによる実態把握
- 「北中だより」とホームページの充実

## 〈豊かな心、健康な体の育成〉

### ④自主性を育み自己有用感を味わう生徒活動の推進

本校の生徒会活動は、生徒会役員を中心に生徒一人一役の行動力に支えられて大きな成果を上げてきた。学校は、生徒が主体的にかかわることで変わる。「生徒会レク」「昼放課レク」「北中シンボルウォール」「北中祭」などの企画・運営・制作を自分たちの手で行うことにより、学校生活をさらに楽しいものにしていく。

- 全員が所属するK I T Aプロによる主体的な運営
- 「北中ソーラン」を核とした活気ある雰囲気づくり
- 環境教育の基盤づくりとしての「無言清掃」の徹底

### ⑤感動のある学校行事の創造

学校行事は、学習の集大成の場として教育的な効果が高く、集団への所属感や主体的な態度の育成、保護者や地域との連携も図りやすい。スポーツフェスタ・北中祭をはじめとした地域と一体となった感動的な行事の創造に努める。本年度も体育大会・北中祭を始めとした地域と一体となった感動的な行事の創造に努める。

- 2大行事(スポーツフェスタ・北中祭)の充実
- プロや本物に触れる機会を重視した学校行事の創造
- 保護者や地域と連携を図る行事の展開

### ⑥部活動の活性化

心身共に成長の急坂にさしかかる中学生期に心や体を鍛えることは重要である。4つのライフスキル(目標設定能力・意志決定能力・対人関係・ストレスマネジメント・)を高める絶好の場である。心と体がそのまま表現される日々の部活動に、生徒一人一人の輝きを見ることができ。かけがえのない多くの思い出ができる部活動を最大限に生かしていきたい。

- よりよい人間関係づくりの場となる部活動
- あいさつと礼儀を大切にする部活動
- 集中度と参加度の高い練習

## 〈確かな学力の定着〉 (E S Dの視点に立った取組)

### ⑦「わかる・できる授業」へのアプローチ

学習はまず授業に向かう姿勢が大切である。その上で基礎・基本がしっかりしていることが、応用・発展につながる。学力の基礎である「読む力・書く力・話す力・計算力」の向上とともに「聞く力・見直す力」を意識させ教科の基本的事項の定着を図る。

- R T(朝の読書タイム)やG Tグレイドタイム(リピート学習)の充実
- 学習の基本ルールの徹底による学習資質の向上
- 学習形態(少人数指導・グループ学習)の工夫

### ⑧「わかる・できる授業」の展開

「なぜ」から「わかった」「できた」につながる授業が学校教育に求められている。生徒の知的好奇心をゆさぶり、個や集団で考える場、関り合う場を通して、課題解決を楽しめる全員参加型の授業づくりに努める。

- 授業デザインを意識した構成の工夫(学習課題、教材開発、板書計画、習得と活用の区別を意識した教師支援)
- 授業を、課題を「設定する」「追究する」「まとめる」の3つの段階に分けて組み立てる。
- 教師の自己研鑽に努め、授業力を鍛える場を設ける。

### ⑨自己実現をめざす「輝づな学習」(総合的な学習の時間)の充実

学習や職業に対する目的意識の希薄化に伴い、働くことの意義や価値観をしっかりと見い出せない若者が増えている。また、生徒を取り巻く環境は、未来に向けて、地球規模の視野を求められている。将来の生き方を考えるとともに、「持続発展可能な社会」の担い手としての資質や能力を育成すること(E S D)は、中学校教育の大きな使命であると考え。

- 環境教育の推進(E S D)
- 勤労観・職業観を育てる「キャリア教育」の推進(E S D)
- 実践力を高める「輝づな学習」の推進(E S D)